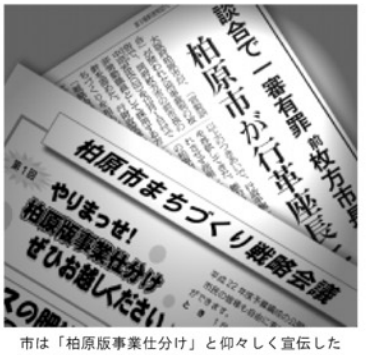
傍聴市民は拍子抜け

名ばかりの「柏原版事業仕分け」

予算公開ヒアリング

昨秋、政府の行政刷新会議による事業仕分けが話題になったことに便乗するかのように、市では「柏原版事業仕分け始まる」（広報誌かしわら）と喧伝していた。その前段となる「予算公開ヒアリング」が、一月十三、十四日の二日間、勤労者会館で行われたが、市民の関心も薄く、単なるパフォーマンスに終わった。



市は「柏原版事業仕分け」と仰々しく宣伝したが、拍子抜け。談合で逮捕された人物が議長というのだから、市民の期待も薄かった＝朝日新聞09年11月25日付夕刊と広報かしわら1月号

当日の議事進行は以下の通りだ。まず、市担当課長らによる事業説明が五分以内で行われ、その後、八人の戦略会議委員による質疑・議論が十分程度続き、そして戦略会議委員によって三分程度の評価が下された。評価は、1（要求通り）、2（減（増）額して予算計上）、3（必要なし）、4（翌年度以降に見送り）、5（今後の事業仕分けで検討）の五つに区分された。

市としてはこれから始まる事業仕分けに向け、行政内部で行っていた予算の査定を公開することで市民へのアピールをねらったようだ。しかしこれは空振りに終わった。なぜなら、市民が求めているのは、緊張感をもった議論のやりとりなのだ。

しかし、それは最初から無理な話だったかもしれない。第一、委員といっても行政との利害関係者、つまり身内なのだ。同じ役所の行政職員が立案した事業の趣旨、目的などの説明を聞いて、具体的な反論、ましてや論破することなどできるはずがない。

加えて、議事を進行するのは、枚方市の一談合を主導した」として逮捕され一番で有罪となった人物なのだから市民も最初から大きな期待をしていなかった。予想通り、当日

「市政改革のアリバイ作り」

傍聴者といっても、大半はマスコミ関係者、市会議員、地域の有力者で、「市政改革の努力をしてますというアリバイづくり」などと厳しい意見が出ていた。

総じて公開でやる意味に疑問符をつけた人が多く、とても〈全国初〉と持ち上げるような内容ではない（「柏原新聞」だけは提灯記事を書いている）。近く実施される〝本番〟の事業仕分けは、よほど心して取り組まないと、「無駄の削減といいながら無駄な仕事を増やす」という結果になるだろう。

事業仕分けの本来の目的は、第一義的に行政改革であり、歳出削減はその次なのだ。行政の無駄は、役人が自分たは筋書き通りの〝作業〟が進み、拍子抜けした傍聴者は次々と帰って行った。

ちの仕事を確保するために、コスト無視で創出するために生まれるからだ。予算や決算をチェックできない政治家の怠慢がそこに加わる。

今回の事業仕分けが、市民へのPRというより、役所の実績のPRツールづくりになってしまわないようにくれぐれも願う。

市民の声

東山周辺の汚染が進んでいる

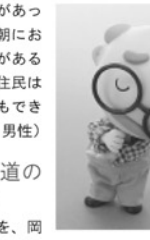
東山の不法投棄はえらい問題。水辺のサワガニなどの生き物がおらんようになった。水をやっても農作物が枯れたり、（本来は黒くない）山の石が真っ黒になったりしてる。タイヤを燃やしてるところを見たこともある。

汚染された水は、大和川に流れ込んでいるはず。どんど不動の周辺の水、大池の水も汚れている。何年も前から市に抗議してるが「大阪府が許可したから、知らん」と言われた。この問題を「見張り番」が取りあげてくれたのはありがたい。頑張ってほしい。（東山在住・男性）

危険なダンプの違法走行

ダンプがひっきりなしに走っているが、この道路は大型車は通行禁止のはず。通行許可を取ってるんやろか。

東山の不法投棄問題 市民からも不安の声



近くには大県墓地があって、お年寄りが早朝にお参りしていることがあるので事故が心配。住民は迷惑しているが何もできない。（大県在住・男性）

健康被害がとても心配…

見張り番の報道の効果が現れる

東山の不法投棄を、岡本市長が「具体的な証拠がなかったら答えようがない」と答弁しているのは市のトップとしてひどい。

毎朝4時、5時ごろダンプが走ります。その騒音と振動で眠ることができませんでしたが、「見張り番」で不法投棄の記事が出てからピタッと止まりました。市民は、いままで我慢してきましたが、これ以上は我慢できません。（店舗経営・女性）

問題のある業者は徹底排除を

東山の現場を管理している業者やその同族会社に関しては、あまり良い評判を聞きません。偏見を持つのは良くないのですが、住民の健康にかかわる問題だけに、行政は本腰を入れて業者を調査してほしいです。もしものことがあってからでは遅いですからね。（主婦）

はまうら佳子の元気が出るコラム

このままでは柏原病院倒産、市も共倒れ!？

「このままでは夕張の二の舞になりますよ」。自治体病院の経営を視察するため、愛知県小牧市の小牧市民病院を訪れた際、末永裕之院長は開口一番こうおっしゃった。

全国の自治体病院の4分の3が赤字で閉鎖や倒産も少なくないが、小牧市民病院は全国でも数少ない黒字経営の自治体病院で、末永院長はその立役者です。一方、柏原病院は累積赤字が100億円近く、単年度でも約5億円近い赤字を計上しています。

柏原病院については事前に調べておられたようで、いまのやり方のままでは黒字にすることは無理、抜本的な見直しをやらないと倒産するばかりか、市も共倒れになると言われました。経営改善に向けてヒントを聞いたところ、次々と厳しい指摘をされましたが、わたしが強く印象に残ったのは、救急救命センターを設置すること、そして院長と事務局長の連携の重要性でした。

確かに、市から来る事務局長は、院長よりも市長の顔色を気にするケースが多い。それが、院長のもとで、医師・職員全体が一致団結できない原因になっています。これでは病院経営がうまくいくはずがありません。

市政も病院経営も、独断専行を廃した風通しの良い環境のなかでこそ、有能な人材が活躍できるのだと、あらためて思いました。

---

information

イベント等のお知らせ

大和川・石川クリーン作戦
3月7日（日）【大和川会場】午前10時から、柏原市役所前河川敷／清掃箇所：柏原市役所前河川敷、水管橋付近河川敷、河内橋付近河川敷、国豊橋下流児童遊園、片山青少年広場。【石川会場】午前9時から、石川橋上流河川敷／清掃箇所：石川橋上流河川敷。※どちらか都合の良い方へ集合のこと。清掃時間は1時間程度／問い合わせ：道路水路整備課（電話972-1597）

みなさまの声 募集中です。

かしわら見張り番

パトロール

柏原市のホームページに「ようこそ市長室へ」というコーナーがある。市政運営方針や市長への提言などと並んで行動予定があるのだが、どうもこれに〝虚偽記載〟の疑いがある▼年初から少なくとも一月末まで、行動予定に記されている各行事で岡本市長の姿が見られなかったからだ。関係者に聞いてみると、市長は病気のため三週間、入院とリハビリで登庁してなかったという▼二月になってから公務に復帰したものの、極力、人の集まる場所への出席は避けているようだ。病気はしかたないことなので、欠勤自体を責めるつもりはない▼しかし、七万五千人のトップにある者が一カ月も休むとなれば説明責任がある。「体調崩して一カ月ほど休みますが、その間、公務に支障をきたさぬよう副市長に権限を委譲します」と公式コメントを出せば済む話で、ありもしない週間予定を載せるのは疑問だ。何か公にできぬことでもあるだろうか。